

CFC ベトナム視察 報告書

日 付： 平成 29 年 10 月 8 日（日）～平成 29 年 10 月 12 日（木）

訪問先：

- ① 10 月 9 日 CÔNG TY TNHH GIẤY XUÂN MAI
(Hồ Chí Minh) / 段原紙メーカー
- ② 10 月 9 日 CÔNG TY TNHH GIẤY BÌNH CHIỂU
(Hồ Chí Minh) / 段原紙メーカー
- ③ 10 月 10 日 CÔNG TY TNHH KÍNH JIM (VIỆT NAM)
(Bình Dương) / ファイル製品メーカー
- ④ 10 月 10 日 CÔNG TY TNHH GIẤY KRAFT VINA
(Bình Dương) / 段原紙メーカー
- ⑤ 10 月 11 日 CÔNG TY TNHH JP CORELEX (VIỆT NAM)
(Hưng Yên) / 家庭紙メーカー

アテンド： 日本紙パルプ商事(株) 古紙事業部 荻部長
日本紙パルプ商事(株) 古紙事業部 松浦係長
日本紙パルプ商事(株) ホーチミン駐在員事務所 齋藤所長

参加者： 6 名（順不同）

一宮紙原料 株式会社	常務取締役	国本 剛
河村商事 株式会社	部長	成田 智哉
河村商事 株式会社	係長	島田 将宏
グリーンリメイク 株式会社	次長	神山 靖規
水谷製紙原料 株式会社	取締役	水谷 浩輝
株式会社 石川マテリアル	執行役員	宮下 雄一郎

① 目的

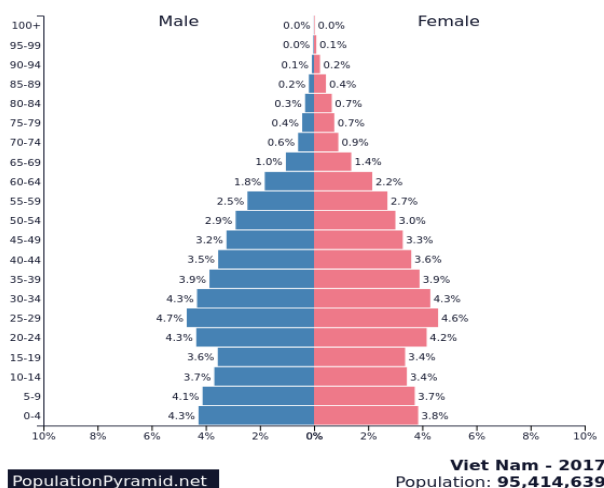
中部ファイバークラブ（CFC）メンバー6名は、10月8日から10月12日にかけて、ベトナムの経済や製紙・原料調達事情を視察するため、日本紙パルプ商事(株)にアテンドを依頼し、ホーチミン近郊4社とハノイ近郊1社の合計5社を訪問した。

直近の中国古紙輸入規制の影響から、市況は大幅に変わっており、ベトナムから原紙の輸出がなされるなど、数ヶ月前までのスタンダードとは異なる、イレギュラーな市況感の中での訪問となった。

② ベトナム概況

ベトナムの人口は約9,400万人。北部は首都であるハノイに700万人、南部は経済の中心であるホーチミンに800万人と、この2大都市に人口が集中している。

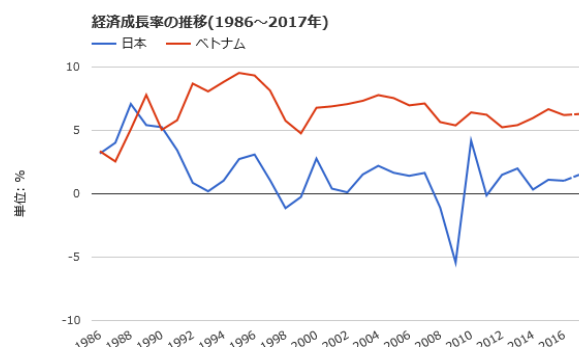
生産年齢人口（15歳以上65歳未満）がそれ以外の従属人口の2倍以上にある、人口ボーナス期の中にあり、活発な消費活動と高い経済成長を継続している。



1986年にドイモイ（刷新）が提起され、1995年～1996年には9%台の経済成長率を記録。アジア通貨危機の影響で、パーツ経済圏であるベトナムの成長は、一時的に鈍化したものの、海外直接投資の順調な増加を受けて、2000年～2010年の平均経済成長率は7%台の高成長。2011年以降も5%～6%台を維持し、現在まで安定的に成長を続けている。

各国でリーマンショックの影響が大きかった2009年においても、5%台の成長率を記録していることから、ベトナムの経済成長の底堅さをうかがうことができる。

ベトナムは一層の市場経済化と国際経済への統合を進めており、2007年1月には、WTOに正式加盟を果たしている。



製紙産業においては、段原紙マシンの増設ラッシュとなっており、豊富な労働力や経済成長の恩恵を受けようと集中している外資系製造業からの、梱包材需要の大きさが見てとれる。

2018年までに約150万tの増設が計画されており、生産能力は一挙に2倍に膨れあがる見込みである。

段原紙生産量とマシン増産計画

時期	製紙メーカー	生産能力
2015年実績		145万t
2016年下旬	アン・ビン・ペーパー	10万t
2016年下旬	ビナクラフトペーパー	22万t
2017年初旬	理文造紙	40万t
2018年初旬	正陽紙業	50万t
2018年初旬	正隆紙業	30万t
2018年見込		297万t

回収古紙の発生源別構成比は、家庭・学校・オフィスが60%、商業施設・紙加工工場・印刷工場が35%、その他（回収業者が埋立処分場に送られるゴミから回収した古紙）が5%となっており、古紙の回収ルートは、回収業者→ジャンクショップ→古紙問屋→製紙メーカーとなっているようである。

③ スアンマイ

スアンマイ社は、7,000t/月（8.4 万 t/年）を生産する地場の段原紙メーカー。ベトナム国内の段原紙生産量を 150 万 t とすると、5.6%のシェアとなる。品種は中芯 50%、テストライナー50%。2 台目のマシン導入を検討しており、そちらも稼働すると年産 20 万 t となる見込みである。



製品は湿度の高い地域性もあり、サイズのきいた吸水性の低い質感だった。販売先はベトナム国内がメインだが、国内にある外資系の大手製造業（サムスンなど）は、大手メーカー品や輸入品を使用するため、近年進出している外資系の大手製紙メーカーとは住み分けができている模様。



同社の製品は、主に国内の日用品等の物流に使用されるため、品質や強度に対する要求は厳しくないようだ。

そのためか AOCC より JOCC の方が、「溶けるのに時間がかからない」という理由で重宝され、AOCC と比較して 10 ドル程度高いまでの水準なら、積極的に JOCC を購入したいとのことだった。

ベトナムで JOCC を購入する場合は、フレートも 10 ドル程度割高になるため、直近の市況では価格が合わず、EOCC や AOCC、中近東からも購入している。

MIX についてもヒアリングしたが、原料は OCC しか使っていないため、MIX という品種を知らなかった。



直近の中国古紙輸入規制を受けて、今まではあまりなかった中国への製品輸出が、製品出荷の 50%を占めるなど、盛んになっている。

製品在庫は受注生産のため、ほぼないとのことだった。OCC の在庫はキャッシュフローの問題で 5,000t 前後。月間使用量は 8,000t であるから、古紙在庫は 1 ヶ月分に満たない数量で運用しているようだ。



④ ビンチュウ

ビンチュウ社は、6,000t/月（7.2 万 t/年）を生産する地場の段原紙メーカー。スアンマイ社同様に、ベトナム国内の段原紙生産量を 150 万 t とすると、4.8% のシェアとなる。品種は中芯 40%、テストライナー60%。4 台のマシンを保有している。



製品の販売先はベトナム国内がメイン。直近の市況では中国に輸出するとメリットが大きいが、長期的に考えて安定性を優先している。



古紙は LOCC が 90% で、カンボジアを中心とした輸入の OCC が 10%。LOCC のうち 10% 程度は品質の悪い古紙だそうだが、価格メリットはあるようだ。EOCC や AOCC は価格が合わず、購入していない。

JOCC は過去に購入していたが、価格が合わなくなってしまった。JOCC と LOCC の価格差は 15～30 ドル程度。価格が合えば月間 2,000～3,000t を購入したい。

LOCC はビナクラフトやリー＆マンなどの、外資系大手製紙メーカーがプレミアムを付けた時期があり、価格水準が上がってしまった。ビンチュウ社は仕入先に対して、支払いスパンを短くすることで、価格の優位性と数量を確保している。



製品在庫はスアンマイ社同様、受注生産でほぼないということだった。OCC の在庫は 2,000～3,000t。月間使用量は 7,000t だが、主に国内調達のため古紙在庫を厚く持つ必要はないようだ。



⑤ キングジム ベトナム

キングファイルやクリアファイル等の製造拠点として、2007年にベトナムに進出して約10年。1,000名弱の従業員で、主に日本向けの商品を製造している。工業団地に立地し比較的従業員は集めやすいが、高卒以上を条件とし、最低賃金の月給2万円を上回る、3万円を支払っている。



写真撮影禁止であったため、工場内の写真は同社HPより引用したもののだが、私たちが横を通ると立ち上がって挨拶をするなど、市内の他の店舗の従業員とは違う、日本的な雰囲気を感じられた。教育の方法などもヒアリングしたが、10年間のうちに企業文化として根付いているようだった。



タイやマレーシアから輸入している、ファイルの芯材となる板紙には多少の斑点があったが、表も裏もシートを張って完成するため、完成品には影響がないようであった。

型抜きした端材や梱包されてきた段ボールなどの古紙は、600 kg/日程度排出されるが、一般的な価格で売却をしている。



製品出荷用の段ボール箱は5社から購入。日系4社と台湾系1社の構成となっている。商品柄、箱にダメージがあると中身に問題がなくても受け取ってもらえないケースがあるので、箱の強度にはとても気を遣っている。

段原紙が大量に中国に流れ、ベトナム政府が対応を検討しているというニュースがあったそうで、段ボール箱の供給に対しては不安があるようだ。



⑥ ビナクラフトペーパー

ビナクラフトペーパー社は 2017 年に 2 号抄紙機が稼働し、42,000t/月（50 万 t/年）となった段原紙メーカーで、タイの王室系企業である SCG 傘下のサイアム・クラフト・インダストリーとレンゴー(株)が、それぞれ 70:30 を出資している。

写真撮影ができなかったため、画像はレンゴー(株)HP のニュースリリースから引用した。



PM1 が 28 万 t を製造し、2017 年 4 月に稼働した PM2 が 22 万 t を製造する。重量ベースでは新型の生産量の方が少ないが、これは 12% にもなる軽量化の成果であり、抄速は PM2 の方が速い。



ベトナム工場から中国への製品輸出は行っていない。今の市況なら短期的に利益が出るが、中国に輸出するならタイ工場からの方がメリットは大きくなる見込み。

使用する古紙の割合は、国内と輸入で 75:25 をベースとしていたが、競合の増加に伴い国内古紙の需要が高まったため、50:50 まで輸入比率を高めた。

原料はタイ工場とベトナム工場で共同購入し、タイの購買担当が振り分けている。中近東から輸入する古紙は雨が少ない地域からでも水分が 25% あるものもあり、警戒している。全体的に EOCC の比率が高いが、理由は価格と歩留まりのバランスで、結果的に選ばれている。



JMIX は JOCC との価格差が小さい（10 ドル程度のため、高すぎる印象。LOCC は 220 ドル程度と高騰しており、輸入できない小規模メーカーがそれを購入するため、LOCC の価格帯は 220 ドルに引っ張られている。

生産が増えてもベトナム国内からは、中国への原紙輸出が盛んなため、供給過多にはならない。慢性的に不足感があるため、値上げはしやすい環境。



⑦ JP コアレックス ベトナム

JP コアレックスベトナム社は2,400t／月（2.9 万t／年）を製造する家庭紙メーカーで、現在はコアレックス三栄(株)と日本紙パルプ商事(株)が、それぞれ 71：29 の比率で出資している。

同じく写真撮影はできなかったため、画像は同社 HP より引用した。



古紙の調達は 1/3 を国内で集め、2/3 を輸入している。理想は国内で全量賄えるようにしたい。抄紙は 3 交代（24h）、加工は 2 交代（16h）で稼働している。

国内の古紙は 1 社から購入。過去には何社か取引があったが、どのルートを通っても同じパイが搬入されていたため、集約して関係を強化した。



共産国家ゆえの言論統制のためか、ベトナム国内には本屋が少なく、コンビニにも雑誌が置いてないので、雑誌（書籍）の発生は少ないが、毎月交わす契約書など、事務書類は比較的多い文化のようだ。



環境対策は厳しく規制されており、特に外資系の企業に対する風当たりは強い。石炭ボイラーを使用しているが、SOx・NOx はサンプリングされ、排水は常時モニタリングされている。

国民一人当たりの家庭紙消費量

国名	日本	シンガポール	中国	タイ	ベトナム
kg／年	15.2	12.5	5.3	2.4	1.2

ベトナムの家庭紙一人あたりの消費量は1.2 kg／年と、まだまだ低水準のため、経済成長に伴い家庭紙の使用量が先進国のように増加していけば、需要の拡大が期待できる。



⑧ 総括

10 月のベトナムは、雨季の終盤という時期であったが、日本紙パルプ商事(株)の荻様・松浦様はじめ、手配をしていただいた皆様方や、見学先の方々の親切な対応のおかげで、有意義な視察とすることができた。



CFC が 2008 年に訪問した際のレポートを振り返ると、一人当たりの年間 紙・板紙消費量は、1995 年に 4 kg で、2007 年に 16 kgと書かれていたが、直近のデータ（2015 年時点）では 41 kgと推定されるなど、ベトナムの経済は紙という媒体だけを見ても、確実に成長していると言える。

また海外直接投資も、当時（2008 年）は 100 億ドル強であったのに対し、直近 4 年（2013 年～2016 年）は、ベトナムの GDP の 10%にも相当する、200 億ドル強の投資が続くなど、2 倍近くに拡大している。



紙・板紙の生産量は国内消費量を下回っており、製品は輸入品を多く使用している。

古紙輸入量はベトナム全体で 59 万 t のうち、日本品が 29 万 t となっており、49.5%のシェアを占めている。

単純に 150 万 t の生産量が増えると、紙・板紙輸入量の 160 万 t が、自国生産でほぼ賄える計算となるため、紙・板紙の種別ごとの過不足はあるにせよ、全体では消費量とバランスするとも考えられる。

ベトナム社会主義共和国と日本の概況比較（2015 年実績）

	ベトナム	日本
紙・板紙 生産量	233 万 t	2,623 万 t
紙・板紙 消費量	386 万 t	2,676 万 t
紙・板紙 輸入量	160 万 t	192 万 t
古紙 回収量	154 万 t	2,120 万 t
古紙 消費量	213 万 t	1,698 万 t
古紙 輸入量	59 万 t	4 万 t
古紙 回収率	39.9 %	81.3 %

地場の段原紙メーカーは、製品在庫を持たない受注生産をしており、原紙の値上げは全体的な不足感から比較的容易なため、経営状況は概ね良好のようだ。段ボールメーカーは、製品に転嫁できない場合が多く、苦しい立場となっている。

スアンマイ社で言われた、溶けるのに時間がかからないという AOCC に勝る JOCC の魅力は、私たちの常識とは違って、用途が違うことによるニーズの違いは、とても衝撃的だった。

私たちサプライヤーが、国際社会の中でこれからも必要とされ続けるためには、グローバルな視点でニーズを正確に把握しなければならない。日本国内のことを深く知るためには、国外から俯瞰するのが一番よくわかる。

中国の古紙輸入規制の先行きが不透明な中、経済成長や段原紙マシンの大幅な増設で、古紙の輸出先としての重要度がますます高まっているベトナム。今後も目が離せない。

【参考】	日本紙パルプ商事(株) (公財)古紙再生促進センター (有)古紙ジャーナル社 外務省 世界経済のネタ帳 キングジムベトナム レンゴー(株) JP コアレックスベトナム	提供資料 紙リサイクルセミナー テキスト http://kosijnl.co.jp/ http://www.mofa.go.jp/ http://ecodb.net/ http://www.kingjim.com.vn/ http://www.rengo.co.jp/ http://corelexvn.com/
------	--	---